



嶺南教育実践フォーラムへの道 part2 【研究員号②】

研究員グループテーマ

一人一人が主体性を発揮できる学校づくり

～「自分と向き合い・考える子」の個の学びを追う～

一人一人が主体性を発揮できるように、私たち研究員は嶺南教育事務所が育てたい子どもの姿である「自分と向き合い・考える子」に焦点をあて研究を進めてきました。

昨年度の研究は授業づくりだけでしたが、今年度は授業づくりに加えて、集団づくり、ICTの活用などいろいろな分野から、子どもの学びをどのように支えるかを追求してきました。フォーラムでは、教師がどんな支えをしたのか、子どものどんな姿が見られたのかをお伝えし、みなさんと語り合いたいと思っています。ぜひ、ご参加ください。

坊 達也（中学校社会科）2/5（水）発表

子どもが自ら追究する社会科の単元デザイン

自ら課題を追究する子どもの姿を目指して、課題を追究する過程を、子ども一人一人が選んで学びを進める複線型の単元デザインについて研究しました。すべての子どもが学習への見通しを持ち、自分の学びを振り返りながら社会科としての学びを深められることを意識して授業を実践しました。単元デザインの具体と、実践で見えた子どもの姿から考察したことを共有します。子ども一人一人の学びを支える授業づくりについて、ぜひ一緒に考えましょう。

東條 麻衣子（道徳科）2/5（水）発表

Which型発問×3観点の問い返しによる道徳科授業づくり

～全員参加でライブ感とストーリー性のある授業を目指して～

自分の言葉で語り合い、多様な考えを受けとめ、深く考える子を目指し、道徳の授業を研究しました。選択・判断するWhich型発問を話し合いの入口にすることで、全ての子どもが参加し、考え、話し合う観点を共有できるようにしました。さらに、子ども同士の学び合いを促進し、深化させるような問い返しを追究して授業づくりを行いました。子ども主体の道徳科授業について、一緒に考えましょう。

太田 翠（集団づくり）2/5（水）発表

「自己をみつめ、人とかかわる力」を育む

～ピア・サポートで心をつなぐ～

子どもたち一人一人が「なりたい自分」に向かって、より豊かに人間関係を築く力を育むことを目指して研究しました。ピア・サポート活動を取り入れ、自己と他者への理解を深めるとともに、自尊心を高めながら人とかかわる力を伸ばしていけるような場を計画的・継続的に設定しました。子どもたちの取り組みの姿や、ふりかえりの言葉から見てきたこと、皆さんと共有し語り合います。

柿本 尚之（小学校国語科）2/6（木）発表

リフレクション型国語科授業

子どもが主体的に学習に取り組むためには、「問い」を持つことが大切だと考えます。リフレクション型国語科授業とは、子どもが「問い」をつくり、「問い」で読み合い、「問い」を評価する学習サイクルです。リフレクション型国語科授業を取り入れることで、子どものどのような姿が見られ、どのような学びがあったかを発表します。私の実践をもとに、「問い」についてみなさんと一緒に考えていきたいです。

高橋 知明（ICT活用）2/6（木）発表

学びに生かすふりかえり

～クラウドを活用した取り組みを通して～

次の学習につながるふりかえりを充実させて子どもの学びを深めたいという思いをもって研究に取り組みました。自他のふりかえりを参照しながら、学習したことを深め、学習内容を確認したり、前の学習内容とつなげたりしながら活動できることを目指して工夫をしました。ふりかえりの質を高めるための教師の働きかけや、子どもたちがクラウドを活用して学んだことから見てきたものを、皆さんと共有し語り合います。

一緒に語り合いませんか？嶺南教育実践フォーラムの詳細・申し込みは、案内をご覧ください。